生物多様性・生態系再生フォーラムグループ
平成18年度　授業案内

■実習

・自然再生事業モニタリング実習

夏学期・１単位

担当教員

鷲谷 いづみ

西廣 淳

概要

人間活動によって損なわれた生態系の健全性と生物多様性を取り戻す「自然再生」は、今世紀に取り組むべき最重要課題の一つとなっている。自然再生の取り組みを進める上では、市民、行政、研究者など多様な主体の協働が欠かせない。また生態系という複雑で挙動の予測が困難な対象を取り扱うため、順応的管理の手法で進めることが求められる。さらに、順応的管理を有効に進めるためには、管理に参加する主体間での情報の共有、それに基づく合意形成、科学的にも未解明な課題への理解を深めるための「学習」プロセスが重要である。すなわち、順応的管理とは、多様な主体が「為すことによって共に学ぶ」実践であるともいえる。

自然再生事業を進めている場所を対象とした多様な主体による「協働モニタリング」は、生物多様性や生態系の現状や必要な管理についての認識を共有し、順応的管理を進める基礎をつくる上で有効であると考えられる。本実習では、霞ヶ浦で進められている湖岸植生帯の再生事業を舞台にした「市民・研究者協働による湖岸植生再生事業のモニタリング調査」（保全生態学研究室の主催により2004年から実施）を題材に、この新しい取り組みに参加しつつ、よりよい協働モニタリングのあり方について議論する。

スケジュール

2006年5月26日（金）ガイダンス
2006年6月 3日（土）協働モニタリング1日目（茨城県石岡市霞ヶ浦湖岸）
2006年6月10日（土）協働モニタリング2日目（茨城県石岡市霞ヶ浦湖岸）
2006年6月24日（土）協働モニタリングに関する討議
2006年7月31日（月）レポート提出締め切り

募集人数

10名（参加希望者が10人を超えた場合は動機などをお聞きして選考させていただきます）

連絡窓口

西廣 淳　農学生命科学研究科保全生態学研究室
ajn@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp
電話03-5841-8915

※履修を希望する学生は、4月21日（金）までに学生サービスセンター内「大学院係」で履修登録すること。

■演習

・生物多様性と農業

冬学期・１単位

担当教員

鷲谷 いづみ

概要

経済性と効率のみの追求による農業形態の変化の中で、急速に不健全化を進めた農業生態系。

その中で、社会と生態系を再生し、自然と調和のとれた人間社会を築こうとする流れは、世界的潮流である。日本でもその萌芽が見られはじめている。2005 年 11 月、ウガンダで開催された第 9 回ラムサール条約締結国会議において、世界有数のマガンの越冬地である宮城県「蕪栗沼・周辺水田」が条約登録湿地となった。「水田」を明確に湿地として位置づけ、保全対象としたのは、世界にも類をみない画期的事例である。また同年 9 月には、兵庫県豊岡市において、農業生態系の頂点に位置する「コウノトリ」が、野生復帰に向けて放鳥された。

これらの取り組みの中核を担うのが、生物多様性の保全と矛盾しない新しい農業システムの構築である。健全な生態系・人間社会の基盤構築にむけたこれらの取組みには、農家・行政・産業・研究者など、さまざまな主体の協働が不可欠である。各地の先進的な事例をご報告いただき、その後、学生を交えたディスカッションを行いたい。

スケジュール

2006 年 11 月 25 日 13 時～　農学部 3 号館 4 階大会議室

報告予定者

呉地正行（日本雁を保護する会会長）

雁と湿地環境・共生のための再生

伊藤豊彰（東北大学大学院助教授）

「ふゆみずたんぼ」の農学的研究

稲葉光國（NPO 法人民間稲作研究所長）

生物多様性を活用した有機農業

中貝宗治（兵庫県・豊岡市長）

兵庫県豊岡市の取組み（「コウノトリ育む農業」）

高橋直樹（宮城県・大崎市職員）

宮城県田尻町（現 大崎市）の取組み（「ふゆみずたんぼ」）

田中茂穂（滋賀県職員）

琵琶湖をめぐる取組み（「魚のゆりかご水田」）

石塚美津夫（新潟県 JA ささかみ職員）

地域づくりとしての循環型農業（ゆうきの里ささかみ）

庄司昭夫（株式会社アレフ代表取締役社長）

外食産業「びっくりドンキー」が担う自然再生

原　耕造（全農 SR 推進事務局長）

消費者による生物多様性保全システム「生物多様性マイレージ」

田崎愛知郎（パルシステム連合商品統括本部）

生協の産直活動による環境保全型農業の推進

募集人数

50 名

連絡窓口

菊池玲奈　農学生命科学研究科　保全生態学研究室

e-mail　：reina@ag.wakwak.com　　電話：03-5841-8915

■関連講義

・保全生態学総論（既設）

夏学期　集中講義

担当教員

鷲谷 いづみ（生態学を基礎とした保全生態学）

小野寺 浩（行政を基礎とした保全生態学）

鬼頭 秀一（社会学、環境倫理学を基礎とした保全生態学）

（1）イントロダクションを兼ねたシンポジウム

「自然再生がめざすもの」（仮題）

日時：5 月 13 日（土）　13:30～17:00　場所：農学部 1 号館 8 番講義室

主催　東京大学 21COE 生物多様性・生態系再生研究拠点

財団法人　農学会

東京大学農学生命科学研究科

13:30～13:40	主催者のあいさつ（COE、農学会）	
13:40～14:10	小野寺 浩（順応的管理グループ）	「自然再生の理念と政策」
14:10～14:50	鬼頭 秀一（順応的管理グループ）	「環境倫理と自然再生」
14:50～15:20	鷲谷 いづみ（拠点リーダー）	「自然再生をめぐる世界の動き」
15:20～15:50	宮崎 毅（研究理念ワーキンググループ）	「自然再生研究とは何か」
15:50～16:10	―休憩―	
16:10～17:00	コメントと会場を交えた討議 司会：鷲谷 いづみ	

コメンテーター：拠点サブリーダー（武内 和彦、宝月 岱造、西田 睦）

（２）集中講義（予定）

8 月 29 日、30 日　10:00～　終日

・生物多様性科学特論

※冬学期に開講の予定でしたが、今年度は閉講します。平成 19 年度に開講の予定です。